

北海道都市問題会議

(開催日:10月2日(月)/会場:中央公民館講堂) ※出演者の職名は開催当時のものとなります。

▼留萌市は、私財を投じ、マチの隆盛の礎となる港の修築に生涯を捧げた五十嵐億太郎翁をはじめ、古くから産業・経済・交通などの繁栄の礎を市民有志が築いてきた「市民が主人公のマチ」です。また、「三省堂書店を応援し隊」の書店誘致など市民力が実を結んだ取り組みも数多くあります。市民が主体となったさまざまな取り組みの中から、これからのマチづくりについて考えます。



▲参加した一般市民などがより良いマチづくりについて学んだ「第41回北海道都市問題会議」

■基調講演「まちを自分のこととして」

▼基調講演では、講師を務めた東京理科大学理工学部教授の伊藤香織氏が、シビックプライドを持ってマチづくりに関わることの大切さなどについて語りました。



マチとの関係を育むために

東京理科大学理工学部教授 いとう かおり 伊藤 香織 氏

皆さんは、ご自宅のお部屋やお庭にごみをポイ捨てしたりはしないですね。でも、街角や道路ではポイ捨てする方をときどき見かけることがあります。マチを自分の場所だと思っていないからではないでしょうか。

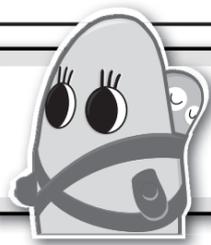
マチを自分事として捉えてマチづくりに参加してもらうためにシビックプライドを持ちなさいと強要することはできません。シビックプライドは個人の中で醸成されていくものだからです。

取り組みとして重要なのは、シビックプライドを醸成するためのきっかけづくり、マチ

とのコミュニケーションを図ることだと思います。まずは、「マチと自分の関係を築くこと」から始めてみましょう。

きっかけはどんな形でも構いません。「行政の取り組みに参加する」「地域課題に対して、住民自身が問題意識を持って行動する」「個人の趣味が高じる過程でマチを巻き込む」などと、さまざまな始め方があると思います。さまざまな考え方の中で、マチとの関係が育まれていくと良いなと思います。あなた自身があなたのマチなのです。

次のページ(6~7P)では、パネルディスカッションに出演した4人のパネリストの発言を紹介するMO~♪

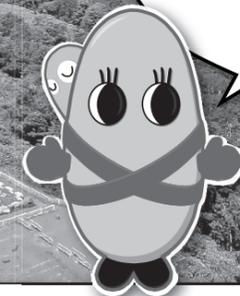


特集

問市・政策調整課 ☎42-1809

第41回 北海道都市問題会議を開催しました

昨年10月、留萌市を開催地に「第41回北海道都市問題会議」を開催したMO~♪



【開催テーマ】

▲市公認かずの子応援マスコットキャラクター「KAZUMOちゃん」

「市民力を活かしたこれからのまちづくり

シビックプライド~留萌人の活躍に学ぶ~」

【開催日程】平成29年10月2日(月)/3日(火)開催

10月2日(月)◎北海道都市問題会議(会場:中央公民館講堂)

- ・基調講演「まちを自分のこととして」
- ・パネルディスカッション
「市民力を活かしたこれからのまちづくり シビックプライド~留萌人の活躍に学ぶ~」

10月3日(火)◎市内テクニカルツアー(市内の公共施設などを視察)

◎北海道都市地域学会セミナー(会場:るしんふれ愛パーク(船場公園)管理棟)

▼「北海道都市問題会議」は、北海道都市地域学会・北海道市長会・開催市が主催し、道内都市における課題や将来像などをテーマに毎年開かれており、留萌市での開催は平成5年以来2度目となります。

41回目を迎えた今回の会議では、一般市民など約140人が参加し、より良いマチづくりについて理解を深めました。

《シビックプライドとは》

シビックプライドは、「マチに対する住民の誇り」を指す言葉で、郷土愛とは少し意味合いが異なります。この言葉には、「この場所をより良い場所にするために自分自身が関わる」といった当事者意識を持ち、マチの課題解決や活性化に取り組む姿勢などが含まれています。



思いやりと優しさの原点

たかはし さだとし
高橋 定敏 市長

私はかつて、「日本で戦後最初に行われたボランティア活動は、留萌だった」という話がある大学の教授から聞いたことがあります。終戦後、すぐに留萌沖で「三船殉難」という大きな事件があり、たくさんの方が亡くられました。当時、留萌市民は被災した方たちを快く受け入れ、親身になって支えたそうです。留萌人の「思いやりと優しさ」の原点はここにあったのかと思います。

現在においても、青年会議所の皆さんが熱心に取り組んできた音楽合宿、本屋のない自治体が増えている中で実現した三省堂書店誘致、環境大臣賞を受賞したフラワーマスター連絡協議会による花壇整備などさまざまな取り組みがあります。

私は、市民の皆さんがそれぞれの立場で主役となり、まちづくりを担う取り組みをされていることをとても誇らしく思っています。

誇りを持って取り組む

いとう かおり
東京理科大学工学部教授 伊藤 香織 氏



シビックプライドはまちに対する誇りですが、いろいろな方の話を伺って感じるのは個人の誇りでもあるということです。

実際には「自分の仕事もあるし、まちのために行動するなんて大変だ」というのが正直な気持ちだと思います。生活の中で「自分が家族の笑顔を支えている」とか「自分がこの仕事を支えている」といったことが、自らの誇りになっているという方は大勢いらっしゃると思います。それと同じように、自分の能

力や繋がりを生かし、まちのために行動することが自分の誇りになっていくこともあるのだと思います。

やらなきゃいけないからやるのではなく、自分にできることがまちに役立つという誇りと喜びがモチベーションとなったとき、はじめて自主的な行動に繋がり、その自主性が創造性を生む、それがとても面白いです。

取り組みを進める上で、楽しんでやれることが大切だと思っています。

本会議開催後、北海道都市地域学会が主催するワークショップを実施し、市内外から多数のご出席をいただきました。ワークショップでは、「高規格道路の開通を契機とした留萌人のまちづくりを考える」をテーマに活発な意見交換が行われました。

第41回北海道都市問題会議の詳細については、市ホームページ (<http://www.e-rumoi.jp/>) で3月上旬以降に掲載予定です。

■パネルディスカッション

「市民力を活かしたこれからのまちづくり シビックプライド～留萌人の活躍に学ぶ～」

▼パネルディスカッションでは、北海道都市地域学会会長の佐藤克廣氏がコーディネーターを務め、北海道大学大学院工学研究院建築都市空間デザイン部門教授の森傑氏、N P

O 法人留萌体育協会専務理事の伊端隆康氏、高橋定敏市長、東京理科大学工学部教授の伊藤香織氏の4人のパネリストがまちづくりに対するそれぞれの考えを述べました。



自主的な努力によるまちづくりを

北海道大学大学院工学研究院建築都市空間デザイン部門教授 森 傑 氏

仕事上、非常に多くの市町村のまちづくりに関わらせていただいている中で感じる課題は、「誰かが何とかしてくれるのではないか」という考えの方が多くことです。

自分のまちで何か問題が起こったときにまず「行政や関係者がなんとかしてくれるだろう」とクレームを言ったり、何か問題が起こったときや新しいことに取り組むときにも「誰か何かアイデアを出してくれ」という話に

なってきます。

留萌をはじめ、北海道の多くのまちの成り立ちをひも解いてみると、住民たちの自主的な努力によってまちが形成されてきた歴史があり、自らが動く気風があったにもかかわらず、現在は希薄化しているのではないのでしょうか。それをもう一度呼び起こしていくことが、これからの北海道におけるまちづくりに重要になってくると思います。

市民のエネルギーを集結して

いばた たかやす
NPO法人留萌体育協会専務理事 伊端 隆康 氏



先進事例にみるまでもなく、行政に頼るといふ考えから脱却しなければ、物事は前進しないと思っています。行政には、「人が集まる環境づくりの仕掛け人」「取り組みを支える後ろ盾」としての役割に期待したいと考えています。

では、実際に取り組みを行う受け皿は誰が担うのか。できれば民間団体が良いと思っています。「このまちの空気を変えたい」「風をおこしたい」と頑張る人たちがたくさんいる

まちが「市民力」のあるまちだと思います。

もしできるなら、この会議をきっかけに「みんなで考える組織」「市民有志によるシビックプライド実現グループ」のようなものが生まれることを期待します。

市制施行70周年の節目であり、第6次総合計画の初年度という絶好のタイミングでもありますので、ぜひ市民のエネルギーを集結して地に足のついた議論を進めていただきたいですね。